

歴史と華鏡

125回

吉井源太とコッピーパー紙

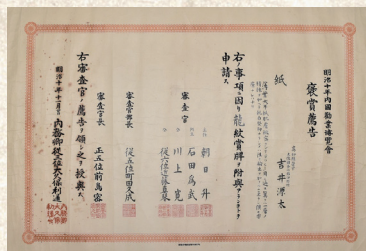
いの町紙の博物館

学芸員 田邊翔

いの町（旧伊野村）の土佐藩御用紙漉の家に生まれた吉井源太（一八二六～一九〇八）は、明治期において「土佐紙業界の恩人」と呼ばれる。今回は源太の開発した紙の一つである「コッピーパー紙」を紹介していきたい。

「コッピーパー紙」は、ガンピという植物を原料とする和紙で、にじみ止め効果と、薄くて紙面が滑らかな特徴を持つ。「コッピーパー」とは、文字通り「コピー」と同義であるが、当時は特殊なインクで書かれた複写原版をぬらして数枚の紙を重ね、圧写する方法であったため、別名「圧写紙」とも呼ばれる。この技法は、蒸気機関で知られるイギリスのジェームズ・ワットの発明である。

コッピーパー紙創出のきっかけは、源太が一八七七（明治十）年の第一回内国勸業博覧会にガンピを用いた薄様大判紙を出品し、その紙が輸出用コッピーパー紙として最適であると評価され、最上位の龍紋賞を受賞したことに始まる。この後も、ニューオーリンズ、シカゴ、フランスで開催された万国博覧会に、源太らは欧米諸国が必要とされる紙を出品し、賞を獲得した。一般にコッピーパー



●内国勸業博覧会で源太が授受した褒賞薦告

紙は一度に八枚を複写できたこととされているが、源太の開発したものは改良の結果、十六枚を複写できたという。

コッピーパー紙はさらに、その後開発された謄写版（通称ガリ版）原紙用紙へと発展し、いの町の一大産業となった。

このコッピーパー紙に代表されるように、「薄くて強い紙」が土佐紙の大きな特徴の一つとなる。当時の新しい社会が必要とする紙を作ることが求められた時代、源太はまさにそのための技術改良を積極的に進めた人物であった。

また、薄くて強いという一見矛盾した紙をすぐには相応の技術が必要だが、一定の品質を保ちつつ、大量の紙をすぐ技術や環境が土佐には備わってきいており、それらの需要に応えることができたことも大きい。それは後に「紙業王国・土佐」を築くことになった。

これらの紙は昭和四十年代以降、新しい印刷機器の普及により急速に姿を消していく。文字の複写としての役割は終えてしまったが、現在では版画などの芸術分野で使われており、一時代を築いた源太らの業績は現代でも生き続けている。

市長コラム

内和・外順

高知市長 岡崎誠也

新型コロナウイルス5類へ

令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症対策の方針が3年を経て、大転換されることとなりました。

昨年の暮れから年明けまで続いたオミクロン株の第8波が落ち着きつつあり、高齢者の方のワクチン接種率が80パーセントを超え、重症化を抑えることができていると判断されたものです。

政府は、欧米の動向を踏まえ、コロナウイルス感染症について、5月8日からインフルエンザと同様に、分類を「第5類」に引き下げる方針を打ち出しました。

とは言いながら、コロナウイルス感染症の感染がなくなった訳ではないので、いくつかの課題が残ります。

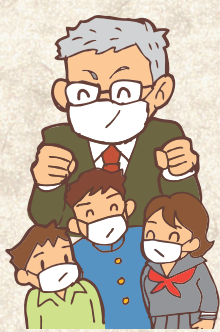
例えば、学校等における、子どもたちのマスクの着用をどの時点で解禁できるのか、国会質疑では、素顔を一度も見たことのない同級生がいる中・高校生には、今春の卒業式で、マスクの着用を緩和してあげるべきではないか、という質問も出ました。感染を怖がる子どもたちもい



るので、一定の配慮を持って、運用されていくものだと考えます。第5類に分類されまると、ワクチン接種についても、本来なら有料になりますが、当分の間は無料にする方向で調整されています。

新しく第5類になりますと、一般病院での普通診療が始まりますが、感染を懸念する医療スタッフの方もおられますので、どこまで通常の診療が広がるのかも微妙です。

病院窓口での自己負担をどうするか、政府は段階的にご負担を願いたいという方向で検討しています。コロナウイルス感染症対策の新薬は、まだまだ高い薬が多いので、配慮が必要です。5月8日から、4年ぶりの新たな暮らしの変化に、当分目が離せないですね。



広告

眠っているピアノ不要な楽器を買取します!

スタッフが無料出張査定いたします。
お気軽にお電話ください。

※電子ピアノ・エレクトーン・オルガンなど買取対象外の楽器があります。高知県公安委員会公認古物商免許 (第831010001747号)

アルペジオ楽器 088-878-0177

〒780-0053高知県高知市駅前町5-1 営業時間 11:00-20:00 定休日 木曜日



2023年3月号

20